

水俣病が多発した水俣市袋湾一帯

まだまだいる？ 潜在患者

水俣病アンケート調査

一万二千人近い“異常”

やはり高率の多発地区

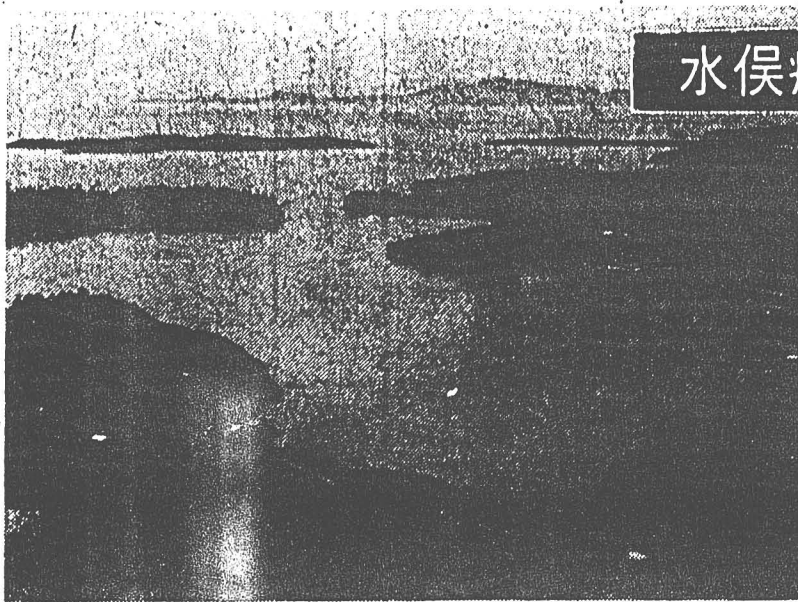
県庁側は三日、先に同様に実施した水俣市調査結果を公表。調査対象の必要者が一万二千七百八十四人となったと発表した。これはアンケート回答者総数の三・九割である。水俣市袋湾の水俣市袋湾、明神岡地区はいずれも四〇割を占め、予備的、潜在患者の内推定された。

二月から二次検診

このアンケート調査は、水俣市・袋湾町・天童町・御所浦を四土・項目にのぼる期間により、調査九四・二割に当たる五万一千三百四十七人から回答が寄せられた。

この中からアンケートの中で取り上げた症状中에서도「ひどい」と答えたものの二割と答えたもので、把握されず、水俣市特有の症状に異常を訴えたものの二割と答えた。また「しびれ」「視力障害」「運動障害」「聴力障害」「運動障害」「性格異常」の障害六割一割のうち三割にまたがって異常を訴えたものを、コンビ

ユータで二次検診対象者として選定した。その結果、水俣市から六千八百八十八人（回答者三・八割）、田浦町から九百八十八人（同二・八割）、明神岡から千四百四十四人（同三・七割）、天童町から千二百四十二人（同九・八割）、御所浦から千八百八十八人（同二・七割）、御所浦から八百八十八人（同二・七割）が二次検診対象者として選ばれた。対象者出数は平均三・九割と前回はほぼ同じだった。



下回つたが、水俣病の多発地域である水俣市・茂道地区が四九・四割、同明神地区が四五・九割とズバ抜けて高く、また水俣市百間一丁目三〇・九割、同二丁目二六・九割と水俣市は全般に高い率を示した。

この結果について同課では「水俣病の症状が、全般に老人病に似ているところから、この中には多くの成人病患者が含まれていると想われる。水俣病かどうかは精査

検査をしてみなければなんとも言えない」と言っているが、水俣病の多発地区で第二次検診出席率が高かったことなどからみて、かなり多くの水俣病潜在患者が含まれているものとみられる。

県は、来年二月上旬から地方医師の協力を求めて第三次検診を行なうが、「このうち一〇割程度の人が精査検査を受けることになる」と言っている。

なお同課では、来年早々、第三次

次検診に当たる地方医師を集め、講習会を開く。